

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第3991461号

(P3991461)

(45) 発行日 平成19年10月17日(2007.10.17)

(24) 登録日 平成19年8月3日(2007.8.3)

(51) Int. Cl.

F I

B 6 0 N 3/00 (2006.01)

B 6 0 N 3/00

B

B 6 0 N 3/10 (2006.01)

B 6 0 N 3/10

A

請求項の数 4 (全 6 頁)

(21) 出願番号 特願平10-227267

(22) 出願日 平成10年8月11日(1998.8.11)

(65) 公開番号 特開2000-52831(P2000-52831A)

(43) 公開日 平成12年2月22日(2000.2.22)

審査請求日 平成16年10月27日(2004.10.27)

(73) 特許権者 000003997

日産自動車株式会社

神奈川県横浜市神奈川区宝町2番地

(74) 代理人 100082670

弁理士 西脇 民雄

(72) 発明者 井上 和良

神奈川県横浜市神奈川区宝町2番地日産自動車株式会社内

審査官 岩田 洋一

(56) 参考文献 特開平8-104162(JP, A)

実開平5-78630(JP, U)

実開平1-114444(JP, U)

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 テーブル装置

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

支持部材の背面に上端ヒンジを中心にして背面に沿った格納状態から略水平な使用状態まで回動自在で且つ使用状態を維持することが可能な構造のテーブルを設け、該テーブルに容器を保持する保持孔を形成したテーブル装置であって、

前記テーブルの下面に保持孔の上端ヒンジ側にヒンジを有し且つ先端に引掛部を有する可動フックが取付けられ、テーブルの格納状態で可動フックがテーブルの下面に沿った折りたたみ状態となり且つ先端の引掛部が保持孔内に位置することを特徴とするテーブル装置。

【請求項2】

支持部材の背面に、テーブルを格納状態にした際に、フックの先端と当接して、該フックをテーブルの下面に沿った折りたたみ状態にするカム面を形成した請求項1記載のテーブル装置。

【請求項3】

支持部材の背面に、下端に引掛部を有する固定フックを取付けると共に、該引掛部にカム面を形成した請求項2記載のテーブル装置。

【請求項4】

固定フックの上端部で、テーブルの上端ヒンジを形成した請求項3記載のテーブル装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

10

20

【発明の属する技術分野】

この発明はテーブル装置、特に支持部材に折りたたみ自在に設置されたテーブル装置に関する。

【0002】**【従来の技術】**

食べ物等を載せる上面領域とテーパ型の容器を保持する保持孔を備えたテーブルを車両の車室内に設置する例がある（類似技術として、特開平7-112643号公報参照）。最近では、この種のテーブルを支持部材としてのシートの背面に折りたたみ自在に設置すると共に、このテーブルに手提げ袋等を吊り下げ支持するための可動フックも備えたいという要請がある。すなわち、シートの背面に、上端ヒンジを中心にして、背面に沿った格納状態から略水平な使用状態まで回動自在なテーブルを設け、このテーブルの使用状態を維持して、上面に食べ物等を載せると共に、保持孔に飲み物用の容器を保持する一方で、テーブルに設けた可動フックにより、手提げ袋等を吊り下げ支持しようとするものである。

10

【0003】**【発明が解決しようとする課題】**

しかしながら、このようなテーブルを設置しようとする場合、テーブルに可動フックを取付ける位置が問題になる。すなわち、可動フックをテーブルの上面に取付けると、テーブルの格納状態でこの可動フックを使用することが可能になるが、テーブルの使用状態では可動フックを使用できず、また可動フックにて占領された分だけ小物を載せる上面領域が狭くなく。次に、可動フックをテーブルの下面に取付ければ、上面領域は広く確保できるものの、テーブルの格納状態では可動フックを使用できなくなる。更に、可動フックをテーブルの周縁部に取付ければ、テーブルの使用状態及び格納状態の両方において可動フックを使用することが可能になるが、可動フックに吊り下げた手提げ袋がテーブルの周辺部に位置するため邪魔になると共に、テーブルの上端ヒンジに加わる負担が大きくなる。

20

【0004】

この発明はこのような従来の技術に着目してなされたものであり、テーブルの使用状態及び格納状態の両方で可動フックが使用可能で、テーブルの上面領域を広く確保でき、可動フックに吊り下げたものが邪魔にならず、テーブルの上端ヒンジに負担が加わらないテーブル装置を提供するものである。

【0005】

30

【課題を解決するための手段】

請求項1記載の発明は、支持部材の背面に上端ヒンジを中心にして背面に沿った格納状態から略水平な使用状態まで回動自在で且つ使用状態を維持することが可能な構造のテーブルを設け、該テーブルに容器を保持する保持孔を形成したテーブルであって、前記テーブルの下面に保持孔の上端ヒンジ側にヒンジを有し且つ先端に引掛部を有する可動フックが取付けられ、テーブルの格納状態で可動フックがテーブルの下面に沿った折りたたみ状態となり且つ先端の引掛部が保持孔内に位置する。

【0006】

請求項2記載の発明は、支持部材の背面に、テーブルを格納状態にした際に、フックの先端と当接して、該フックをテーブルの下面に沿った折りたたみ状態にするカム面を形成した。

40

【0007】

請求項3記載の発明は、支持部材の背面に、下端に引掛部を有する固定フックを取付けると共に、該引掛部にカム面を形成した。

【0008】

請求項4記載の発明は、固定フックの上端部で、テーブルの上端ヒンジを形成した。

【0009】**【発明の実施の形態】**

以下、この発明の好適な実施形態を図1～図4に基づいて説明する。図中の符号1は、車両のフロント側のシートを示すもので、そのシートバック2の「背面」を形成するバック

50

パネル 3 には、テーブル 4 が取付けられている。従って、この実施形態では、シートバック 2 が「支持部材」に相当する。このテーブル 4 は樹脂成形品で、右側にはカップ等のテーパ型容器 5 を保持するための保持孔 6 が形成されている。そして、このテーブル 4 は左右一対の上端ヒンジ 7、8 を介して回動自在に取付けられており、シート 1 のバックパネル 3 に沿った格納状態から、略水平な使用状態まで回動することができ、水平な使用状態は図示せぬロック機構により維持されるようになっている。左右の上端ヒンジ 7、8 には所定のフリクションが与えられており、振動が加わっても、テーブル 4 がガタつかないようになっている。

【0010】

左右の上端ヒンジ 7、8 のうち、右側の上端ヒンジ 8 は、バックパネル 3 に取付けられた固定フック 9 の上端部により形成されている。この固定フック 9 はバックパネル 3 に設けられた溶接ボルト 10 と、該溶接ボルト 10 に締結されるナット 11 により取付けられており、下端には斜め上向きの引掛部 12 が形成されている。また、この引掛部 12 の表面はバックパネル 3 に対して所定角度をなし且つバックパネル 3 の表面に連続するカム面 13 となっている。上端ヒンジ 8 が固定フック 9 の上端部で形成されているため、別に設ける場合に比べて、部品点数の低減を図ることができる。また、カム面 13 がバックパネル 3 の表面に連続しているため、このカム面 13 の形成により、固定フック 9 の引掛部 12 を補強することができる。

【0011】

そして、テーブル 4 の下面における上端ヒンジ 8 側には、ヒンジ 14 を介して回動自在な可動フック 15 が設けられている。この可動フック 15 は、テーブル 4 の下面に沿った折りたたみ状態で、先端の引掛部 16 が保持孔 6 内に位置する。この際、可動フック 15 の U 字状の引掛部 16 の自由端部は、テーブル 4 の上面より若干突出して、保持孔 6 から折りたたんだ状態における外側へ臨むようになっている。この可動フック 15 はヒンジ 14 に所定のフリクションが与えられており、可動フック 15 は回動させた位置に停止し、且つ振動が加わってもガタつかない。

【0012】

次に、このテーブル 4 の作用について説明する。テーブル 4 を引き起こし、水平な使用状態にしてロックすることにより、保持孔 6 内にテーパ型の容器 5 を保持することができると共に、テーブル 4 の上面に食べ物等を載せることができる。また、可動フック 15 及び固定フック 9 のそれぞれの引掛部 16、12 に、手提げ袋 17 を吊り下げて支持することができる。可動フック 15 がテーブル 4 における保持孔 6 の上端ヒンジ 8 側に位置しているため、可動フック 15 に手提げ袋 17 を吊り下げても、後席乗員にとって邪魔にならない。また、可動フック 15 が上端ヒンジ 7、8 に近いため、上端ヒンジ 7、8 に加わる負担も小さい。

【0013】

次に、テーブル 4 を格納状態にする場合には、容器 5 や手提げ袋 17 を外した後に、テーブル 4 をバックパネル 3 側へ回動させるだけで良い。すなわち、手提げ袋 17 の吊り下げにより引き起こされた可動フック 15 は、テーブル 4 を格納状態にする過程で、固定フック 9 のカム面 13 に当接し、自動的にテーブル 4 の下面に沿った折りたたみ状態となるため、テーブル 4 をバックパネル 3 側へ回動させるだけ、テーブル 4 は確実に格納状態となる。

【0014】

そして、テーブル 4 を格納状態した際に、可動フック 15 の引掛部 16 がテーブル 4 の保持孔 6 内に位置し、しかも引掛部 16 の自由端部は保持孔 6 より突出状態となるため、その保持孔 6 内に位置する引掛部 16 に対して手提げ袋 17 を吊り下げ支持することができる。このように、この実施形態では、テーブル 4 の使用状態と格納状態の両方において、可動フック 15 に手提げ袋 17 を吊り下げることができる。

【0015】

この実施形態によれば、車両のシート 1 を例にしたが、これに限定されず、本願発明は劇

10

20

30

40

50

場や映画館等に設置されているシートはもちろんのこと、テーブルを折りたたみ自在に支持できるような縦面を有する壁部（車両においてはサイドトリム等）にも適用することができる。

【0016】

【発明の効果】

請求項1記載の発明によれば、可動フックがテーブルの下面に取付けられるため、テーブルの使用状態で可動フックの使用が可能となり、且つテーブルの上面領域を広く確保できる。また、テーブルの格納状態で可動フックの引掛部が保持孔内に位置するため、テーブルを格納状態にしたままでも、可動フックを使用することができる。また、可動フックがテーブルの下面における保持孔の上端ヒンジ側に取付けられているため、可動フックに吊

10

【0017】

請求項2記載の発明によれば、可動フックの先端がカム面に当接して、可動フックがテーブルの下面に沿った折りたたみ状態になるため、テーブルを支持部材の背面側へ回動させて格納状態にする際に、可動フックが邪魔にならない。

【0018】

請求項3記載の発明によれば、支持部材の背面に固定フックを取付けたため、この固定フックの引掛部にも、手提げ袋等を吊り下げることができる。また、この固定フックの引掛部に形成されたカム面で、可動フックを折りたたみ状態にすることができる。

【0019】

20

請求項4記載の発明によれば、固定フックの上端部でテーブルの上端ヒンジを形成したため、上端ヒンジを形成するための部品が不要となり、部品点数の低減を図ることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】この発明の一実施形態に係るテーブル装置を示す斜視図。

【図2】テーブルの使用状態を示す斜視図。

【図3】テーブルの格納状態を示す斜視図。

【図4】図2中矢示S A－S A線に沿う断面図。

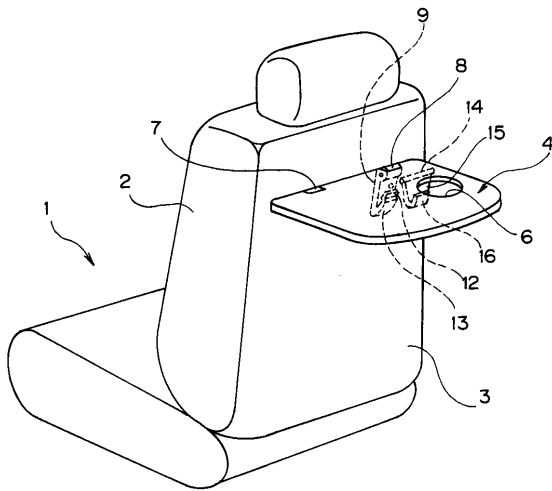
【符号の説明】

- 2 シートバック（支持部材）
- 3 バックパネル（背面）
- 4 テーブル
- 5 容器
- 6 保持孔
- 7、8 上端ヒンジ
- 9 固定フック
- 12 引掛部（固定フック）
- 13 カム面
- 14 ヒンジ
- 15 可動フック
- 16 引掛部（可動フック）
- 17 手提げ袋

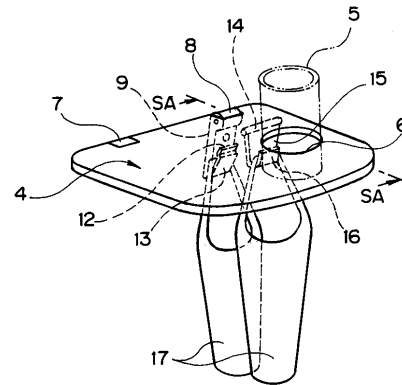
30

40

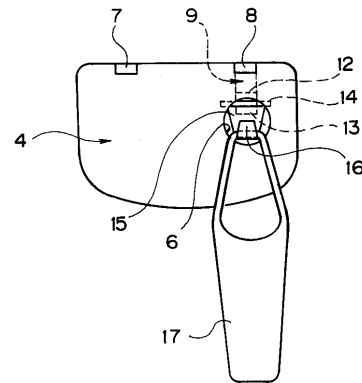
【図 1】



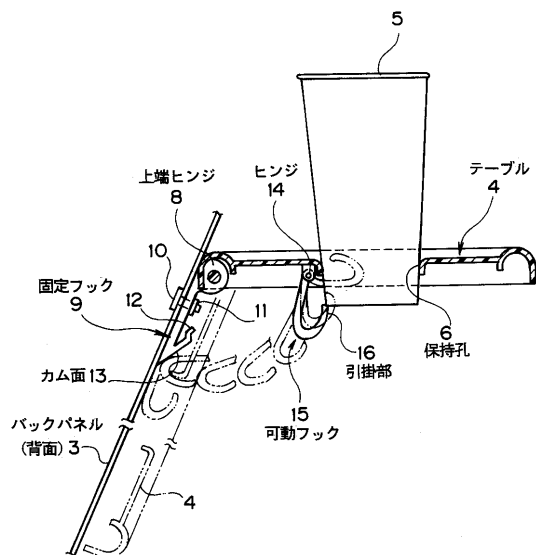
【図 2】



【図 3】



【図 4】



フロントページの続き

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

B60N 3/00

B60N 3/10

A47C 7/62